

大学における SDGs 推進の KPI としての ESD（持続可能な開発のための教育）

千葉商科大学	橋本 隆子 [※]
千葉商科大学	伊藤 宏一
千葉商科大学	今井 重男
千葉商科大学	滝澤 淳浩
千葉商科大学	山田 武

和文アブストラクト

SDGs では「目標 4 すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」が定められている。その中でも「4.7 ESD（Education for Sustainable Development、持続可能な開発のための教育）の推進」がターゲットの一つとして位置付けられており、大学における重要課題となる。千葉商科大学は、創立以来「大局的見地に立ち、時代の変化を捉え、社会の諸課題を解決する、高い倫理観を備えた指導者」の育成を目指しており、ESD の推進はまさに建学理念にも合致する。我々は SDGs 推進のため、特別講義「サステナブルな暮らしを考える」を設置している。全学部の教員と外部有識者による本講義は、学生に SDGs についてさまざまな観点で学ぶ機会を提供している。また学生と共にエシカルグッズの開発を行い、エシカルな消費やライフスタイルを実践的に学ぶ活動も行っている。こうした ESD は学生の環境社会配慮に関する意識を醸成し、SDGs の達成に大きく貢献可能な KPI となりうる。本発表では、千葉商科大学の ESD を紹介するとともに、それよる学生の意識変化やハードウェアの醸成について議論し、こうした活動が重要な KPI となることを示す。

University Education for Sustainable Development for Achieving SDGs -

Takako Hashimoto (Chiba University of Commerce)

Koichi Ito (Chiba University of Commerce)

Shigeo Imai (Chiba University of Commerce)

Atsuhiro Takizawa (Chiba University of Commerce)

Takeshi Yamada (Chiba University of Commerce)

Abstract

Goal 4: Quality Education is one of goals in SDGs and it says the necessity for promoting ESD (education for sustainable development) as one of targets. In universities, ESD has become one of core subjects. Since its founding in 1928, the Chiba University of Commerce (CUC) has accepted many young people to study here under the educational philosophy of “practical scholarship with high morality” as it started as a school for accounting. Promoting ESD matches the philosophy. We are organizing the special lectures to learn SDGs for developing the sustainable societies and provide students opportunities to think about what we can do. We are also developing ethical goods along with students as a hands-on learning activity. These activities can help students grow awareness for environmental and social consideration. In this presentation, we introduce our activities and discuss the changes in student attitudes and the importance of consensus-building and heartware-fostering for achieving SDGs.

大学における SDGs 推進の KPI としての ESD（持続可能な開発のための教育）

千葉商科大学	橋本 隆子*
千葉商科大学	伊藤 宏一
千葉商科大学	今井 重男
千葉商科大学	滝澤 淳浩
千葉商科大学	山田 武

1 はじめに

SDGs (Sustainable Development Goals) では「目標 4 :すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する (Goal 4 : Ensure inclusive and quality education for all and promote lifelong learning)」が定められている。目標 4には 10 個のターゲットが定義されているが、中でも「4.7 : 2030 年までに持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得するようにする。(4.7 : By 2030, ensure that all learners acquire the knowledge and skills needed to promote sustainable development, including, among others, through education for sustainable development and sustainable lifestyles, human rights, gender equality, promotion of a culture of peace and non-violence, global citizenship and appreciation of cultural diversity and of culture's contribution to sustainable development)」は、ESD (Education for Sustainable Development、持続可能な開発のための教育) の推進として、大学における重要課題となる。千葉商科大学は、創立以来「大局的見地に立ち、時代の変化を捉え、社会の諸課題を解決する、高い倫理観を備えた指導者」の育成を目指している。社会科学の総合大学として、原科幸彦学長の掲げる基本戦略「学長プロジェクト」[2]のもと、2017 年度より「会計学の新展開」「CSR 研究と普及啓発」「安全・安心な都市・地域づくり」「環境・エネルギー」の 4 テーマで、SDGs、サステナビリティ、ICT、Fintech、エシカル、ESG 投資、防災、地域コミュニティ、再生可能エネルギー、RE100 等、時代に即した研究と実践活動を行っている。2017 年 11 月には、日本初の自然エネルギー100%大学も宣言した。ESD の推進はまさに建学理念と学長プロジェクト戦略の両者に合致すると言える。

本学では ESD の一貫として、特別講義「サステナブルな暮らしを考える」を設置している。また、目標 4に加えて、「目標 12 つくる責任 つかう責任 (Goal12 : Responsible Consumption & Production)」も視野に入れ、エシカル消費やライフスタイルを実践的に学び、エシカルグッズの開発も行っている。こうした ESD により、学生の環境社会配慮に関する意識を醸成し、SDGs 実現のためにすべきことを学生自身が考えられるようになる。そこで本稿では、千葉商科大学の ESD を紹介するとともに、ESD による学生の意識変化等や、こうした活動が SDGs 達成のための重要な KPI となることを示す。

本稿は以下のような構成になっている。第二章では、本学で実施している特別講義「サステナブルな暮らしを考える」の概要と、それによる学生の SDGs に対する意識変化について述べる。第三章では本学におけるエシカル消費教育の取り組みについて紹介する。最後に今後の展開について述べる。

2 特別講義「サステナブルな暮らしを考える」

特別講義「サステナブルな暮らしを考える」（2018年春学期開講）は、学長プロジェクト活動の一部であり、本学の商経学部、政策情報学部、サービス創造学部の3つの学部の学生を対象とした学部を超えた講義となる。全学部の教員に加え外部有識者が講師となり、学生にSDGsについてさまざまな観点で学ぶ機会を提供する。以下、本講義の目的、内容、結果について簡単に説明する。

2.1 本講義の目的

SDGsは、国連とその加盟国が全世界で、地球環境と社会が持続可能に発展していくために取り組んでいる目標である。本講義を通じて、学生は、世界では地球温暖化や資源枯渇などの環境問題、貧困や飢餓、ジェンダー平等などの社会問題が数多く存在すること理解する。さらにこうした問題が学生自身の生活や未来に大きく関わることを学生自身が知り、「持続可能な暮らし」のために、何をすべきかを考える場とする。本講義は環境省が進める「地球温暖化防止コミュニケーター」制度にもリンクしており、地球温暖化に関する知識の習得とそれを他の人々に伝えるコミュニケーションスキル及び企画・運営スキルを身につけることも目的としている。

2.2 本講義の内容

まず、原子力に依存せずに安全で持続可能な社会作りと会津地域のエネルギー自立を目指す会津電力(株)から、エネルギーと地域活性化の観点からSDGsに取り組むことの重要性についてご説明いただいた。さらに貧困や気候変動といった問題を掘り下げ、サステナブルな経済・金融といった本学の強みを活かした講義も実施した。エネルギー政策、地域・社会問題へと内容を進め、自然エネルギー100%大学としての千葉商科大学の取り組みや、学生を巻き込んだUSR（大学の社会的責任）推進、エシカルグッズの開発など、大学の活動についても紹介を行った。イオン、オムロンといったSDGsに積極的に取り組む最先端の企業の方をお招きし、企業としての活動についてご紹介いただいた。「地球温暖化防止コミュニケーター」制度に基づき、NPO法人気象キャスターネットワーク代表の気象予報士の方にご講義をいただき、「地球温暖化防止コミュニケーター」講座も実施した。

2.3 本講義の結果

本講義の最後に学生に以下のようなアンケート（一部抜粋）を実施した。

- ① SDGsを知っていますか？
- ② (SDGsを知っていると答えた場合) SDGsをどこで知りましたか？
- ③ 本講義を通じて学んだことを書いてください。
- ④ 千葉商科大学の自然エネルギー100%の取り組みをどう思いますか？
- ⑤ この特別講義「サステナブルな暮らしを考える」を他の商大生にも勧めますか？

図1は「① SDGsを知っていますか？」の結果である。53件の回答中、「知らない」と答えた学生は1名のみであり、その他の52名(98.1%)の学生が知っていると答えている。さらにSDGsを知っていると答えた学生にたいして、「② SDGsをどこで知りましたか？」と尋ねた結果を図2に示す。46名(88.5%)の学生が、本講義でSDGsを知ったと答えており、本講義がSDGsの知識獲得に有効であったことが示されている。「③ 本講義を通じて学んだことを書いてください。」の質問に対しては、「SDGsにおける問題と、それらの対策を深く理解することができた。」、「地球環境という大きな問題に対して、自分も何か出来ることがあるとわかった。」、「発展途上国を支援するだけではなく、先進国の自ら

の暮らしを見直して行く必要がある。」、「自分たちも取り組めるところが多々ある。個人の力でも良くし、そして周りに広めることが大事だと思った。」といった講義の目的に合致したコメントが得られた。「④ 千葉商科大学の自然エネルギー100%の取り組みをどう思いますか？」については、20名（38.5%）の学生が「とても素晴らしい」、29名（55.5%）の学生が「素晴らしい」と答えており、学生においても高く評価されていることがわかった。最後に「⑤ この特別講義「サステナブルな暮らしを考える」を他の商大生にも勧めますか？」という質問については、17名（32.7%）の学生が「全学生に受講を勧める」、55名（63.5%）の学生が「希望する学生に受講を勧める」を選択しており、本講義が学生間で広く共有されるべきものであると感じていることが示された。本アンケートを通じて、本講義における我々の目的がかなり達成できたことが確認できた。

SDGsを知っていますか？

53件の回答

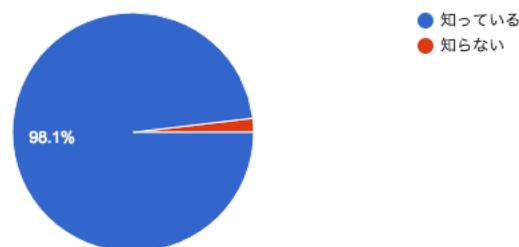


図1 「① SDGsを知っていますか？」の回答結果

SDGsをどこで知りましたか？

52件の回答

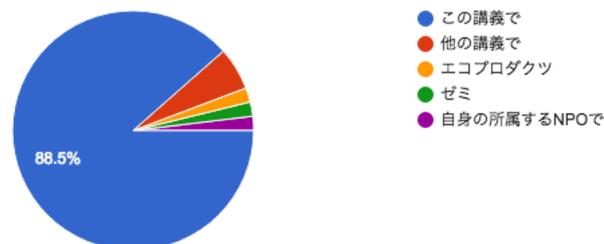


図2 「② (SDGsを知っていると答えた場合) SDGsをどこで知りましたか？」の回答結果

2. 千葉商科大学におけるエシカル消費教育の取り組み

一般に「エシカル消費」というと、経済や消費者問題に焦点が当てられることが多く、教育における実践はまだまだ十分でない。SDGsの実現のためにも「エシカル消費」を教育問題として捉え、研究・実践を進めていく必要がある。学生一人ひとりがエシカル消費の意味するところを正しく理解し、それがどのように持続可能な社会に寄与するかを認識することが重要となる。本学の教員にとっても新たな取り組みであるため、まだ手探り状態ではあるが、学生を巻き込みつつ活動を推進しているところである。

本学のこれまでの活動について紹介する。本学では、学長プロジェクトの一貫として、2017年10月にエシカル消費の学習を開始した。11月の学園祭「瑞穂祭」において、エシカル消費の啓蒙ブースを設置

し、エシカルの認知度調査も実施した。195名の回答者のうち約2割（44名）が「エシカル消費」という言葉を聞いたことがあるとの結果を得ることができ、「エシカル消費」の認知度はまだ低いことが確認できた。2018年度には、学生中心のエシカル消費啓蒙活動がさらに進展した。学生カフェにおいて、フェアトレードコーヒーを提供し、学内での理解促進を行った。NPO法人フェアトレード・ラベル・ジャパン、イオン株式会社等を訪問し、エシカル活動について更に調査を行った。また、浜松市、熊本市、名古屋市といったフェアトレード・タウンを訪問し、それぞれの地域のエシカル活動についても情報収集を行っている。学生のアイデアを取り入れつつ、本学オリジナルのエシカルグッズの開発も行っている（図3）。新潟県柏崎市の低農薬米作り農家「ヤマノホ」との連携も開始し、学生とともに6月、8月、9月に訪問し、環境・人・社会へ配慮したエシカル消費についてさらに学びを進める予定である（11月の学園祭で「ヤマノホ」のコメを販売予定）。こうした活動を通じて学生は、エシカル消費の重要性や、それを啓蒙することの意義を認識し、地域社会へと展開していくことが期待される。

3. まとめ：今後の展開

本学で推進しているESD（特別講義「サステナブルな暮らしを考える」とエシカル消費教育）を紹介した。これらのESDを通じて、学生はSDGsへの理解を深め、SDGs実現に向けて自分がやるべきことについて考えるようになっていく。本学が推進しているESDは、SDGsの「目標4：すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」のターゲット「4.7：2030年までに持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする。」にまさに寄与するものであり、KPIとなりうると考える。今後はこうしたESDをさらに全学に展開し、大学教育の観点からSDGsを推進していきたいと考えている。

参考文献

[1] Sustainable Development Goals, <https://www.un.org/sustainabledevelopment/sustainable-development-goals/>

[2] 千葉商科大学学長プロジェクト, http://www.cuc.ac.jp/about_cuc/activity/project/index.html